

メールレター(49)

クレープの日

「雪が降るー、貴方は来ない、ラーラー♪」そんなロマンチックな雪から程遠い、激しい吹雪が街を覆っています。雪は縦に降らず、ほぼ水平に吹き荒れています。ニューヨークを襲った吹雪が上がってきて、カナダ東岸を吹き荒れているのだそうです。

このコロナでは、雪が降っても降らなくても、訪問禁止で、貴方が来られない日が続いていて、かれこれこれ11ヶ月が経ちます。長いですねー。

こんな雪を眺めながらクレープを焼いています。

「2月2日はクレープの日よ。」

そう、フランス人の友達が言っていたのを思い出し、焼いてみました。

「脇の下にコインを挟んで、フライパンを持ち上げて、ポーンとクレープをひっくり返すのよ。ひっくり返れば、一年間お金には困らないそうよ。孫達といつもするのよ」

これが意外に難しいのです。半分はうまく引っくりかえらず、フライ返しでクレープをひっくり返す羽目になり、あー今年もお金に困るかも、とため息をつきながら、クレープを焼いていました。

宗教的行事で、2月2日は、聖誕(イエスキリスト誕生)40日後の、聖母マリアがイエスを聖壇で清めてもらって、イエスが社会に姿を現した日だそうです、フランスでは、今でも、家庭の行事として残っているようです。左手にコイン持って右手でひっくり返して幸福を願うとも言われていますが、私の周りでは、右の脇下にコインを挟んで、フライパンを持ち上げて空中でクレープをひっくり返します。ひっくり返れば、お金に困らないと言われると、もう夢中です。焼いたクレープには、色々な物を入れて食べます。食事用にハムやチーズなど入れたり、デザート用にジャムなどをぬって食べます。手軽で、ポピュラーで、美味しい、家庭のお助けメニューです。

緊急事態宣言でにっちもさっちもいかないある日、フレデリクトンに住む孫達(義理の次男の子供たち)からカードが送られてきました。凧の絵が描いてあり、背中は凧、前は食べらる餃子。

「マミー(フランス語でおばあちゃん)いつ来るの?。早く餃子が食べたい。凧みたいに飛んできて」と書いてありました。そうか、マミー和子は餃子ばあちゃんなのか。いつも出していた餃子は、実は冷凍の、できあいのものとも言えず、

「そのうち行くから」

と軽く答えておきました。そうだ、もう一度ドリトル先生に登場してもらって、孫達と往復書簡をすることにしよう、と思い立ち、ドリトル先生冒険記、シーズン2、(シーズン1はアフリカ)をこの孫達にフランス語で書くことにしました。ドリトル先生は、今回は、忍者ドクターとなり、日本に剣道の修行にやってきます。どんな日が待っているのか、ドキドキハラハラ、カ

ナダのど田舎の子供たちには、相撲だの、剣道だの、頭は混乱するばかりかもしれません。また、郵便受けの前でまっていることでしょう。こうしていれば、何とか時は過ぎていきそうです。

「これってなあに」

ひと月遅れで届いた義理の長男からのクリスマスプレゼントを開けてマダム田中は啞然としました。

「宙に浮く盆栽(エア盆栽)って書いてあるんだけど」

「君がびっくりしそうな物を送ったとは言ってたよ。あの子のことだから、あてにならないと思っていたけど、届いたんだね。」

ドリトル先生もやや驚き気味です。

「わー初めての彼の贈り物。うれしいなあー！最後かもしれないから、大事にするわ。それにしても驚いたわ。台と器があるだけなのよ。どうやらセットするらしいのよ。でも、どうセットするのかしら。」

反重力(Anti-gravity)と書いてあり、どうやら磁石の反発力を使っているようなのです。マダム田中の知識と能力では、理解できず、セットできず、説明書に書いてあるようにしてみても、器は宙に浮かず、どかっと台に落ちるだけです。重力のままです。しっかりと磁力の出る方向を見極めて中心にセットするようなのです。

「無理、無理。ゴミ箱行きだわ」

マダム田中は台と器を前に絶望しています。ドリトル先生は、3日ほどかけ、慎重に、丁寧に、繰り返し、そーっと指を一本一本離していき、ついに成功しました。

「素晴らしい。なんだか宇宙にいるみたい」

器が台から浮上し、その上、周り続けています。マダム田中は、この器にそのうち何か入れてみようとは思っていますが、不安定な不思議な感覚を逃れられないようです。